



2022年9月29日

日本鉄道労働組合連合会

西九州新幹線（武雄温泉～長崎間）開業！

9月23日、西九州新幹線（武雄温泉～長崎間、約66キロメートル）が開業した。同区間は1973年に整備計画路線の決定を受け、2008年の工事認可後は鉄道建設・運輸施設整備支援機構（鉄道・運輸機構）が建設を進め、半世紀越しに開業の日を迎えた。

同区間には武雄温泉駅、嬉野温泉駅、新大村駅、諫早駅、長崎駅の5駅が設けられ、意匠を凝らした駅舎は早くも街のシンボルとなっている。また、武雄温泉駅では在来線との対面乗換方式のホームが設置され、博多・佐賀方面とのスムーズな乗換が可能となった。博多～長崎間の所要時間はこれまでの1時間50分から1時間20分（最速）に短縮され、交流人口の拡大、沿線の観光振興やまちづくりなど、様々な面で大きな効果をもたらすことが期待されている。



鉄道・運輸機構資料より

■ 並行在来線の利便性確保や沿線地域の振興には

「チーム公共交通」「チーム地域共創」の取り組みが不可欠

西九州新幹線の開業に伴い、並行在来線区間の江北（開業に伴い肥前山口から改称）～諫早間では、JR九州が運行と車両の保有を担い、佐賀県と長崎県が設立した（一社）佐賀・長崎鉄道管理センターが鉄道施設と土地を保有する上下分離方式が導入され、一部の区間はコスト削減のため非電化となった。加えて、江北駅では武雄温泉・博多方面の特急列車にスムーズな乗り換えを確保するなど、同区間の利便性に配慮したダイヤが設定された。引き続き、利便性を追求し利用者の増加につなげていくことが重要と考える。

あわせて、新幹線開業を機に西九州エリアに投入されたD&S列車「ふたつ星4047」を活用した沿線の観光振興や地域活性化には、あらゆる関係者の協力が肝要であり、JR連合が提唱する「チーム公共交通」「チーム地域共創」の取り組みが不可欠である。

また、未着工区間である新鳥栖～武雄温泉間の整備方式については、国と佐賀県との間で「幅広い協議」が続いているが、これまでの経緯や関係者間の合意事項を踏まえ、国がより強いリーダーシップを発揮して真摯に佐賀県と向き合うことが求められる。

■ JR連合と鉄構労が連携し、課題解決に向け政策を展開！

この間、JR連合と鉄道運輸機構労働組合（鉄構労）は、高速鉄道・新幹線ネットワークの構築と計画推進に係る政策提言の策定に向け共同で取り組んできた。鉄構労の仲間が建設した新幹線をJRが安全に運行するという役割を果たすことによって地域を盛り上げていくことは、わが国の成長や地域の持続的成長に極めて有用であると考えている。中長期的な国土のグランドデザインの中に高速鉄道・新幹線を描き実現するべく、様々な課題の解決に向け連携し、積極的に政策を展開していくこととしたい。